

ファンがつくる 金沢競馬をもっと楽しむ情報誌

遊馬+ 競

協力：金沢ホースマンクラブ
協賛：金沢競馬振興協議会
発行：遊駿プラス編集部

無料

ご自由にお持ちください
www.kanazawakeiba.com

第65回

六月一四日(火)

百万石賞

なんでも聞いてよ
魚住騎手に聞きました
ハンディーテヨーのつぎやき
もしもコラボをするならば

2022年6月

vol. 48

※ご意見、ご感想をお寄せください
宛先 E-Mail: yushun.plus@gmail.com
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>



魚住騎手に聞きました

金沢競馬最年少騎手である魚住謙心騎手。昨年、地方・中央の若手騎手の交流戦ヤングジョッキーズシリーズで中央初勝利を飾り、総合三位の好成績を挙げて全国にその名を轟かせた。

そんな魚住騎手の出身は大阪。金沢とは縁があまりなかったが、デビューの地として選んだのは、

「いろんな競馬場を見ていたけど、新人を結構載せているように見えて。乗せてもらって経験積んで上手くなって行きたかったの」

騎乗機会を求めて金沢を選び、その結果一年目に四十五勝を挙げて同期の中で一番の勝ち星を挙げられ



た。

そして、二年目にはネイバーアイランドと共に全国の重賞、ダートグレードの舞台に上がるなどこの選択の正しかった事を証明した。

ちなみに、大阪生まれ大阪育ちだが話す言葉には関西訛りが余りない。

「(教養) センター入って周りに色々な方言が飛び交っていたので、自然と大阪弁が出なくなっていた」

もちろん、地元に戻れば元に戻るそうだ。

そんな大阪で騎手になろうと思っただきっかけは家族の影響。

「親が競馬好きだったので、休日には競馬中継見て、競馬場にも連れて行ってもらったのでいつの間にか憧れていた」

騎手に憧れを抱くとそれに向けて動き出す。

「騎手指指していたのでちょっとでも騎手になる為に下半身を鍛えようと陸上部を」

短距離の選手として頑張ったが、いい記録や結果は残せなかったそう。他のスポーツは選択肢になかったのかと訊くと、

たのかと訊くと、

「他のスポーツは余り見ない。球技が苦手。野球もサッカーも凄い下手。ボーリングも(やったけど)まあ酷かった」

以前、金沢競馬ではファンとの交流イベントとしてボウリング大会が行われていたが、復活したら是非とも参加していただきたい。

魚住騎手で目を引くのがその勝負服。緑地に赤の縞、袖に白の二本線と今までの金沢の騎手にないような色使いだ。



Photo by miwa

「目立ちたいと言ったのが大きかった。緑は元々好きな色だったんで入れたかったし、そこに映えを狙って派手になればと赤を入れた」

セルフプロデュースも若手離れしていそう。それともこれが関西人気タイプは、

質と言う者なのか。

金沢はもちろん、全国のファンをアツと言わせる魚住騎手がそこは一九歳の青年。競馬以外の事を聞いてみると、

「好きな食べ物」甘い物。ケーキとか生クリーム系。コンビニでもなんでもスイーツだったらOK」

実はスイーツ男子。そして休みの日にする事は。

「家でゲームしているか、寝ている。ゲームはパソコンゲーム。オンラインFPSでAPEXとか」

どんなゲームかと言えば、要するに銃器でプレイヤー同士がドンパチ撃ち合うゲーム。一人でするゲームが好きなのかと言えば、

「(ゲームは) 割とみんなでやる方が好きだけど……」

一緒にする相手がいないそうである。ちなみに魚住騎手と一緒にゲームをしてくれそうな女性は、

「(彼女は) 募集中。今はいない。どしどし待っています」

「髪はショートの子でボブぐらいの子で優しい子だったら。芸能人だったら浜辺美波。かわいいなあ」

浜辺美波風のゲーム好きな方、立候補をお待ちしております。

今年、ネオアマゾンズと共に重賞金沢スプリングカップで5着と初重賞制覇まであと一步の所まで来ている魚住騎手。

「今年は重賞を狙っていききたいし、平場のレースも自分の事を意識してもらえるようにバンバン勝っていききたい」

これからの意気込みを力強く口にしました。その上で、

「人気の馬に乗って応えて行きたい。(昨年総合三位の)ヤングジョッキー(シリーズ)、今年こそは優勝を」

より信頼感のある騎手となって、さらなる高みを目指す。

負傷で少しだけ遠回りを強いられることになったが、今後もファンをアツと言わせる活躍でより多くの勝利を、初重賞を物にしてほしい所。その先には憧れとまで言う吉原寛人騎手が立ちほだかる。そこに追いつき、追い越すその日まで。魚住騎手は突き進んでゆく。

石川ダービー!

今年は六月の下旬に開催の石川ダービー。梅雨本番な上に気温も上がる。波乱が起きそうな雰囲気だけはあるが実際はどうなるか。

注目は五連勝で北日本新聞杯を制した牝馬スーパーバンタムだろう。



スーパーバンタム Photo by ベ

北日本新聞杯ではスタートからハナを切り、スタイルユアセルフに四馬身差の快勝。連勝の勢いは本物と言う所を見せつけた。

初めての二〇〇〇mを心配する向きもあるが、一七〇〇mのこのレースを逃げ切った所や父のアポロニックがともに二四〇〇mの青葉賞二着、日本ダービー三着であることを考えると、そこまでの心配は無用と言えそう。

前哨戦の快足を見せてハクサンアマゾネス以来の金沢デビューの生え抜き馬によるダービー制覇となるか。また、主戦の青柳正義騎手、管理する鈴木正也調教師ともいずれも初めての石川ダービー制覇となるか。人馬ともに大注目である。こちらも合わせて注目したい。

また彼女と同等か、それ以上に注目となるのが同じ牝馬のエムティアンジェ。門別から移籍後に重賞四勝。他場との交流重賞も二勝しており、もはや金沢に敵なし、相手は全国だと思われた。

しかし、今年になつての出走は初戦の平場戦一回のみで重賞はパス。さらに父のマクフィは一四〇〇〜一六〇〇mまでで活躍し、産駒も短距離で成績を残す事が多い。

ダービーに好調を持ってこられるかと、二〇〇〇mの距離への対応できるか、が鍵となりそう。

ちなみにこちらも勝てば栗原大河騎手、佐藤茂調教師はダービー初制覇となる。

他の有力どころでは牡馬の一番手、石川ダービー三勝の吉原寛人騎手騎乗の盛岡からの移籍馬リュウノガルシア。

父はダートの二〇〇〇mでも良績のあるアメリカンペイトリオットで距離は心配ない。

また、石川ダービー四勝の金田一昌厩舎が送り出すセン馬スノー

フォックスも虎視眈々。父は地方で信頼の名前、パイロ。このようにミスター石川ダービー達の刺客もスタンバイしている。

今年のダービーは順当か波乱か。ダービーシリーズのラストはどのような結末か。目が離せない。

プレイバック
石川ダービー
振り返り

ここで昨年のダービーを振り返ってみよう。

門別から移籍後怒涛の金沢ヤングチャンピオン、北日本新聞杯を制したアイバンホーが単勝一・六倍の一番人気。二番人気には中央一勝クラスから金沢に移籍、初戦で実績馬を一蹴したビルボードクインが二倍で続いた。

レースはアイバンホーがハナを奪



ビルボードクイン Photo by miwa

い、ビルボードクインが二番手で続く。一周目のスタンド前あたりからはアイバンホーがやや差をつけて逃げてビルボードクインが追走。三番手に四番人気サブノタマヒメが



アイバンホー Photo by miwa

全五回の石川ダービーを見ると、一番人気の勝利はこの二回しかないが、一方で馬券圏内を外したのは一回しかない。また上位三頭が上位三番人気までの馬で占められたのは二回あり、一見本命党御用達のレースに見える。

しかし、三→二→一番人気で決まって三連単が万馬券と言う年もあったので、買目次第では美味しい馬券にありつけそうとも言える(なおこの年の三連複は六〇〇円)。

馬券圏内につつまんでくる人気薄の馬の特徴としては「北日本新聞杯で好走したのに人気がない」パターンが多いように見える。

昨年三着のフューリアスもそうだが、一昨年の二着フジヤマブシは北日本新聞杯優勝しているのに四番人気。振り返ってみれば、と後悔してしまいそうな馬が多い。

石川ダービーは今年になって移籍、平場で勝ってダービーへと言う三歳戦線途中参加の馬が度々現れるので新たな魅力について、目移りしてしまいうが今まで頑張ってきた既存勢力を見切るのには早そう。

今年も昨年のような一騎打ちとなるのか意外な馬がここで頭角を現すか。ダービーシリーズ二〇二二の最後を飾る石川ダービーは六月二十一日にスタートする。

ミニターブルーム
ダービーはここを狙え

百万石賞

今年六月十四日に行われる上半期の一番、百万石賞。この日は加賀藩藩祖前田利家が金沢城に入城した日であり、市祭百万石まつりが元々行われていた日である。

そんな特別な日に行われる今年の百万石賞を制すべく今年も金沢の優勝が二〇〇mの馬場に集う。

栄冠に一番近いとファンの多くが思うのは連覇を狙うハクサンアマゾネス(牝五歳)だろう



ハクサンアマゾネス

Photo by miwa

今年初戦の金沢スプリングカップは休み明けと言う事もあったのかわる覚を取るも百万石賞トライアル利家盃ではスタートから先頭に立ち、そのまま先頭を譲る事なく二馬身半差で勝利。着差以上の強さを見せつけ

ここを連覇。本番への弾みをつけた。主戦の吉原騎手とも人馬一体の走りここでは正に無敵と言った所。敵は金沢ではなく全国の強者。金沢城よりいざ出陣、となるか。

そんなハクサンアマゾネスに実際に待ったをかけたのがファストフラッシュ(牡七歳)。ハクサンアマゾネスから金沢の馬が勝利を挙げたのは通算四回。その内の二回がこのファストフラッシュである。



ファストフラッシュ

Photo by ゆうか

今年のスプリングカップでは二番手追走から早めに先頭に立つと伸びを欠いたハクサンアマゾネスを四馬身突き放し、昨年に続いてこのレース連覇を果たした。金沢のどの馬よりもハクサンアマゾネスよりも早くゴールを駆け抜けた経験のあるファストフラッシュ。競馬場をアツと言わせて百万石を統べる準備はできている。

この二強に割って入る存在はと言えば、スギノグロリアアップ(牡九歳)。昨年までは大井に所属していたが、二〇二〇年の北國王冠を制している。

その後は五着がやっとと言う不振に喘ぐも昨年のイヌワシ賞で再び金沢に登場すると三着に入って復活の狼煙を上げた。そして今年、金沢に移籍すると初戦を制し、利家盃では出走馬最速の上がりを見せてハクサンアマゾネスに迫る二着。金沢ではまだまだやれる所を見せた。

思い出の地金沢でもう一花咲かせてその空にゴールドを捧げたい。

他にも、門別を皮切りに東海、南関、岩手と渡り歩く中で金沢のサラブレッド大賞典、加賀友禅賞の二重賞を制し、今年に入っても金沢スプリングカップ三着、徽軫賞二着と当地に抜群の相性を見出したベニスビーチ(牝四歳)も外せない。

トライアル利家杯のメンバーからは五着イリュージョニスト(牡六歳)、出てくれば面白そう枠からは彗星の如く現れたサクラルコール(雄十一歳)、逃げが叶えばかなりしぶといジェネラルエリア(牝五歳)等など、今年も出走する面々はまさに多士済々。

今年百万石まつりは久々のフル開催で大きく盛り上がった。金沢競馬のお祭り、百万石賞はどんな祭りとなるか。目が離せない。



もしもコラボをするならば

先日、金沢競馬事業局がアプリゲーム「ウマ娘プリティーダービー」と金沢競馬とのコラボに意欲を見せていると耳にした。

ご存じない方に説明すると、「ウマ娘」はゲーム以外にもアニメ、コミック、楽曲にライブ活動と様々なメディアに展開しており、非常に多くのファンを持つ作品である。

また、弥富に移転した名古屋競馬、作中にも登場するオグリキャップが走った笠松競馬で既にコラボが行われており、いずれも大盛況となった。

そんな実績からして集客イベントとしてはこれ以上ない施策——だがしかし、他場の二番煎じをやるだけでは埋没してしまうのは目に見えている。後発は先発のしない事をやって盛り上げる必要がある。

それは、何をすべきか。実は、コラボが実現した際に実施されれば盛り上がるだろうと言うイベントは既に、金沢で度々行われているのである。

それは、抽選会だ。一定金額以上の未確定の馬券が抽選券となり、ガラガラを回して出た玉の色で賞品をゲットできるあのイベント。度々行われている光景を目にした方もおられると思う。ちなみ

にハンシューチヨウは、過去に馬券は当たらないが米十キロを当てた事がある。

ウマ娘のゲーム中にも福引でガラガラを回して賞品を狙うイベントがあり、実際に行われればちよつとしたトレーナー気分を味わえそう。もちろん、賞品もゲームに寄せて特等温泉宿泊券……は無理でもスーパー銭湯の招待券とか温泉に関わる物。二等や三等には石川の畜産品(ハ

ンバークがベスト)や農作物(人参グッツ。そして末等はゲームと同じポケットティッシュと言った感じ。ゲームでは末等だとウマ娘のやる気が下がるだけだが、実際にやることきつと盛り上がるだろう。

現実問題として列の形成やら混雑整理が大変な事になるとは思うが、確実に金沢競馬に来た思い出になるだろうし、馬券も売れるだろう。コラボイベントがただ「ある物を並べただけ」ではつまらない。

一緒になってイベントを作り上げてこの機会にしか来ないような人も金沢競馬を楽しんでもらえるような、そんなイベントになってもらいたい。

その中の一割、それ以下かもしれない人が再び金沢競馬を訪れるようになればそれでいい。意欲を見せたのなら、実現した際には誰もが楽しめるお祭りとしてもらいたいものである。